

2021 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修 「教育評価の実践講座——パフォーマンス評価をどう活用するか」 実施の様子

教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2021 年 8 月から 11 月にかけてオンデマンド講義と同時双方向の分科会を組み合わせた「教育評価の実践講座——パフォーマンス評価をどう活用するか」を提供し、延べ 78 名の方にお申込みいただきました。

オンデマンド講義では、パフォーマンス評価について基本的な考え方や進め方を概観するとともに、分科会参加に向けて受講者に事前に取り組んでいただきたい課題を提示しました。その後の分科会では、各分野に関するより深い内容の講義と事前課題の成果を持ち寄ったワークショップを行いました。

オンデマンド講義と分科会の講義名・担当者は次の通りです。オンデマンド講義『「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価』（西岡加名恵教授）、総合分科会『「総合的な学習（探究）の時間」の指導と評価——ポートフォリオ評価法とルーブリックを中心に』（西岡加名恵教授・京都市立堀川高等学校研究部長 濱田悟教諭）、教科別分科会「国語科におけるパフォーマンス課題とルーブリック」（大阪教育大学 八田幸恵准教授）、「社会問題の理解を深め、構想力につながる社会科のパフォーマンス評価」（追手門学院大学 鋒山泰弘教授）、「外国語（英語）科におけるパフォーマンス評価と授業づくり」（佛教大学 赤沢真世准教授）、「算数・数学科におけるパフォーマンス評価の在り方」（兵庫教育大学 徳島祐彌助教）、「理科におけるパフォーマンス課題を生かした単元設計の方策」（愛知県立大学 大貫守准教授）。

受講後のアンケートに対し、受講者の皆さまからは、次のようなご意見・ご感想をお寄せいただきました。

「事前課題があると、能動的に研修に参加できるので、よかった。本質的な問いと永続的な理解について、実際にワークシートに記入して、グループで共有したことで、疑問点が解決され、理解が深まった」、「自分の疑問や考えてきたパフォーマンス課題について、講師の先生や参加者の方からコメントをもらえてうれしかったです。一人で考えていると悩むことが多く、自信もなくなってくるのですが、コメントをもらうことで先が見えてきた感じがしました」、「[本研修の成果は]ルーブリック策定の知見が得られたこと。堀川高校の実践をお聞きできたのも良かったです。また、実際に生徒さんの論文を評価してみて、自分の中での評価規準が非常にあいまいだったことにも気づきました。他の参加者のみなさんもそれぞれ異なる視点をお持ちで、学校全体として共通する評価規準を設けることの難しさや、職員皆で協議して観点や記述語を練り上げていくことの重要性を感じました」、「今回は教科別の研修で、実践により近づけやすかったことです。先生のご講義から具体的に活かせることが多くありました」、「パフォーマンス課題の作成を通して、久々に指導要領や参考書を見直しました。知識の統合の重要性やトランスサイエンス問題など、授業の組み立て方を考える良い機会になりました」。

E.FORUM では、引き続き実践に役立つ知見を得られる、楽しくて元気の出る研修を提供していきたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。



9. 探究力を評価する際の観点(例)

協働する力

課題そのものの質

資料収集力

論理的思考力

基礎的な知識・スキル・理解

自己評価力

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.62)

西岡加名恵(講師)

【総合分科会】
← 西岡加名恵教授
↓ 濱田悟先生

授業「探究基礎」

「総合的な探究の校内呼称が「探究」

2クラス同時の2時間連続が週1回

火曜 1・2組	水曜 3・4組	木曜 5・6組
普通科	探究科	探究科

濱田悟(講師)

学びの変容の「可視化」

⇒川

◆CAN-DOリスト
⇒(リストをより具体化した)児童用ルーブリック

自己評価用ルーブリック

自己評

AKAZAWA

4. 「本質的な問い」を書いて

- 人間にとって農業とは何か？
- よりよい社会や暮らしをつくるために、どのように農業を発展させるべきか？
- 「持続可能な農業とは何か？」
- 「農業の生産性はどのように測るべきか？」

鋒山泰弘(講師)

↑↑
【社会・地歴・公民分科会】
鋒山泰弘教授

【英語分科会】↑↑
上) 赤沢真世准教授
下) 田中容子特任教授(司会)

現場でのパフォーマンス課題づく
「客観的な基準に基づいて判断す

- 「話すこと・聞くこと」話し合いのル

	4	3			
話題が明確である					
生産的である	拡散に向かう				
	収束に向かう				
参加の仕方が民主的である					

八田幸恵

←【国語分科会】
八田幸恵准教授

ものの燃え方を例にとると

(3)

あなたはベテランの消防士です。
ある日、火事の現場(洋服店)に駆けつけたところ建物の中は、炎が上がっていない状態でした。
そこで、新人の消防士が扉をかけて中には入ろうとしました。
あなたは「バックドラフト現象」を思い出し、とっさに「開けるな」と叫び、彼を止め、時間が経った後に、適切に消火活動を行いました。
後日、その消防士に止めた理由を説明しようと思いました。
論理的に説明するために、「バックドラフト現象」と「燃える」ということをB4のレポートにまとめ、それを使って説明しようと思えます。
どのようにまとめることができるでしょうか。

大貫守(講師)

【理科分科会】大貫守准教授 ↑↑

【算数・数学科分科会】徳島祐彌助教 ↓↓

パ課題①：解答例

三角形... $6 \times 8 \div 2 = 24$

平行四辺形... $4 \times 6 = 24$

徳島祐彌(講師)